

4・17院内集会

2023年4月17日

行動提起

弁護士 尾藤 廣喜

(いのちのとりで裁判全国アクション共同代表・
生活保護問題対策全国会議代表幹事)

裁判の現状

小久保哲郎弁護士の基調報告にあったとおり、名古屋地裁での敗訴、大坂地裁での勝訴、さらに、その後、は札幌、福岡、京都、金沢、神戸、秋田、佐賀の地裁でと敗訴判決が続いた

しかし、熊本地裁の勝訴を転機として、東京地裁で勝訴。仙台地裁では敗訴したものの、その後も、横浜、宮崎、青森、和歌山、さいたま、奈良の地裁で勝訴判決が続いた

その後、大津地裁で敗訴。初めての高裁判決である大阪高裁の判決は、敗訴判決となった。

私たちは何を求めて闘っているのか

- 1 違法な引き下げの取り消しと正しい保護基準に戻せ
という要求
- 2 違法な引き下げによる被害の回復
- 3 透明性が確保され、当事者が参加した上で、健康で
文化的な生活が保障される基準の決定
- 4 「生存権」が保障される制度の確立

いのちのとりで裁判 私たちが求めること（試案）

1 被害を回復すること

- (1) 平成25年改定について原告及び全ての生活保護利用者に対して謝罪すること
- (2) 原告及び全ての生活保護利用者について、平成25年改定前の基準（基準額表の基準①）に消費増税に伴う増額調整をした基準額表に是正し、未払い分を遡及支給すること

2 生活扶助基準の改定方法を適正化すること

- (1) 生活保護基準の改定にあたっては基準部会等の検証を経ることを制度化すること
- (2) 基準部会委員に当事者、弁護士、支援者を入れること
- (3) 低所得者の消費水準との比較によらない、最低生活に必要な需要を積み上げる方式による新たな検証手法を早急に開発すること（令和4年検証や級地統合による更なる引下げは当然行わないこと）
- (4) 夏季加算を創設すること

参考 日弁連生活保護法改正要綱案（改訂版）

- 前項の基準は、国会が生活保障給付審議会の調査審議を求め、その意見を聴いて改定するものとする。〔改正8条2項（新設）〕
- 本条第2項による改定は、統計等の客観的数値等との合理的関連性の有無について再検証を可能とする方法によるものでなければならない。〔改正8条4項（新設）〕
- 生活保障給付審議会は、前項の調査審議において、生活保障給付利用者の意見を反映させるために必要な措置を講じるものとする。〔改正8条3項（新設）〕

3 すべての人にとって利用しやすい生活保護制度
にすること（運用の改善）

(1) 申請者の同意なき扶養照会を廃止すること

(2) 処分価値の乏しい自動車について生活用品とし
ての保有を容認すること

(3) 大学生等の世帯分離をやめること

(4) 人権としての生活保護制度の広報・啓発を強化
すること

4 「生活保障法」を制定すること

- (1) 法律の名称を「生活保障法」とし用語も置き換えて権利性を明確にすること
- (2) 国と実施機関の周知・広報、教示・助言義務を法定し、捕捉率の調査・向上義務を明記すること
- (3) 生活保護基準の改定にあたっては、専門家による審議会の意見を聴き透明性を確保することを法定し、審議会に当事者、弁護士、支援者を入れること

- (4) 住宅、教育、医療、生業の各扶助について**1.3倍基準での単給を認める**こと（住居確保給付金の支給要件を緩和することを含む）
- (5) ケースワーカーの**増員と専門性確保**を法定すること

実現のためのアクションプラン

1 訴訟体制の再構築

私たちの運動のなによりの強みは、全国の原告、弁護団、支援の絆の深さと広がりにある

地裁、高裁の全国的連携をさらに深めながら、各地裁、高裁の訴訟内外を通じて、大阪高裁判決の問題点を周知、克服する取組みを強める

原告の要求の正当性と切実性をさらに訴える

原告が前面に立った訴えの力をさらに強くする

一人の1000歩よりも1000人の一歩を

2 約1年かけて可能な限り29の全地域で以下のような集会と集会に向けた取組みを行う

- ・日弁連や他団体と連携した生活保障法制定運動の一環として行う（弁護団・支援する会などが中核となつて実行委員会的なものをつくる）
- ・集会にあたって地元のマスコミ（全国紙・地方紙）に対し、（連載）記事や社説の掲載を働きかける
- ・集会にあたって与党を含む地元の国会議員（厚生労働委員等）に対し、出席やメッセージ・写真の提供を呼びかけ、「賛同国会議員メッセージ集」を作成する
- ・情報を集約し、連動させる

3 上記取組みの結節点として、2024年4月
(5月) ころに日比谷野外音楽堂で大規模な
集会・パレードを行う

最後に

権利はたたかう者の手にある
(朝日茂さん・健二さんのこと
ば)

一人の1000歩よりも1000
人の一歩を